東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2005年12月30日

いくつかの聖ハディース-2-

親愛なるムスリムの皆様。今週のフトバでは、アッラーが誰を、そしてどのようなことを好まれるかというテーマを続けたいと思います。

アッラーの使徒は言われました。「崇高なるアッラーは、次の三種の人を好まれる。一、アッラーのために、誰も知らない形でサダカを払う人。二、皆が寝ている時に起きて、アッラーに願い、アッラーの章句を唱える人。三、聖戦に参加して、隊が劣勢である時でも、殉死するまで、あるいは勝利するまで前進する人。さらに、崇高なるアッラーは次の三種の人々を嫌われる。一、姦通する老人。二、うぬぼれた貧者。三、残虐な金持ち。」

アッラーの使徒は言われました。「アッラーは、面倒を見なければいけない子供たちがいて、物乞いやハラームの道からの稼ぎを避ける、貧しい信者であるしもべを愛される。」

アッラーの使徒のもとに一人の人が来て、「アッラーの使徒よ、私に、それを行なった際にアッラーも人々も私を愛するような崇拝行為を教えてください。」と言いました。アッラーの使徒は、「この世に対して欲をおさえ、それを求めないようにしなさい。そうすればアッラーはあなたを愛されるだろう。人々が手にしているものに対しても、欲を抑え、それらを求めないようにしなさい。そうすれば人々もあなたを愛するだろう。」とおっしゃられました。

「あなた方のうち、アッラーに最も愛される人は、人々にとっても最も愛される人である。」

「アッラーは、好まれる者にも、好まれない者にも財産をお与えになる。信仰心は、ただ愛されるしもべにのみ与えられる。しもべを愛された時には、彼に信仰を与えられるのである。」

「アッラーは、よい徳を持つ者を愛される。」「崇高なるアッラーは、仕事を行なう際、しっかりと、きちんと成し遂げる者を愛される。」「アッラーは、次の三つの状況では、沈黙することを好まれる。クルアーンが読まれる時、軍が敵に向かって進んでいる時、葬式のドゥアーが行なわれる時。」

「アッラーにとって最も愛されるしもべとは、最も家族の役に立った者である。」

「アッラーは、気前のよさとイフサーンの持ち主であられ、気前のよさと崇高な徳を好まれる。」

「アッラーは、悔悟し、若い時代をアッラーへの服従のうちに過ごす青年を愛される。」

「アッラーは、ドゥアーにおいて繰り返し求める者を愛される。」

アッラーの使徒は言われました。「アッラーはおおせられた。しもべが私のことをどのように思っているのであれ、私はそのようである。彼が私を唱念すれば、私は彼と共にいる。彼が心で私を念じれば、私も彼を心で念じる。彼が、信者の集団の中で私に思いを馳せるのであれば、私も、さらに尊い集団の中で彼に思いを馳せよう。彼が私に、親指と小指を広げた長さの分だけ近づけば、私は彼に腕の長さほど近づこう。彼が私に腕の長さほど近づけば、私は両腕を広げた長さほど彼に近づこう。彼が私のほうに歩いてくるのであれば、私は走って彼に到達するだろう。」

アッラーは、ご自身の御名、特質に似た性質を、しもべに見出すことを好まれるのです。唯一であられるために唯一を、美しくあられるために美を、全知であられるために知識を持つ者たちを、気前よいお方であられるために気前のよさを、力と強さの持ち主であられるために、無力な信者よりは肉体的、もしくは精神的に強い信者を、誠実であられるために誠実さを、正しいお方であられるために正しさを好まれるのです。アッラーが愛されるしもべになれるよう、努力しましょう。